

三二七二番

うちはへて 思ひし小野は 遠からぬ その里人
 の 標結ふと 聞きてし日より 立てらくの た
 づきも知らに 居らくの 奥かも知らに にきび
 にし 我が家すらを 草枕 旅寝のごとく 思
 ふ空 苦しきものを 嘆く空 過ぐし得ぬものを
 天雲の ゆくらゆくらに 葦垣の 思ひ乱れて
 乱れ麻の 麻笥をなみと 我が恋ふる 千重の一
 重も 人知れず もとなや恋ひむ 息の緒にして

反歌

三二七三番

二つなき 恋をしすれば 常の帯を 三重結ぶべ
 く 我が身はなりぬ